

福島県におけるヤナギダコの漁獲実態と成長に関する考察

福島県水産試験場 水産資源部
東北底魚研究第25号

1 部門名

水産業—その他—底びき網
分類コード 19-99-04000000

2 担当者

吉田哲也

3 要旨

本県底びき網漁業の重要な漁獲対象種であるヤナギダコは、2002年以降漁獲量が急増し、2004年には2000年の約3倍となる2,970t、金額では6.1億円にまで達した。本種の漁獲実態を整理するとともに、分布水深、成長について考察した。

- (1) 2000～2004年の漁業種別漁獲量割合は、沖合底びき網漁業（以下、沖底）が77～89%、小型機船底びき網漁業（以下、小底）が10～22%、かご等が0.2～0.8%で、底びき網漁業が99%以上を占めた。
- (2) 漁獲サイズは、沖底が0.1～4.0kg台と幅広いものを漁獲していたが、小底は1.0kg以下が殆どを占めた。
- (3) 分布水深は、トロール調査と着業船の操業水深帯から70～300mと考えられるが、小底が操業する70～90mで漁獲量が増加するのは2～6月のみであることから、100m以浅での分布については季節的なもので、水温変動と密接な関係が見られた。
成長については、市場水揚げ物とトロール調査で採集されたサンプルの体サイズ組成を用いて検討し、以下のような成長が推測された。1、2月(10数g)→7、8月(60g前後)→11、12月(最大300g程度)→翌年5、6月(300～600g)→11、12月(700～1,400g)→翌々年(1,400～3,000g)
- (4) 以上の推定式と100g台で漁獲加入することから、年始めに見られる10数gのものは年末頃に成長の
- (5) 速いものから順次漁獲加入し、翌年9月～翌々年6月まで漁獲の主群となり、約1.5～1.75年程度漁獲の対象となっているものと考えられた。

4 その他の資料等

なし